

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2011年度 前期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

2011

沖縄キリスト教短期大学

2011年度 前期授業評価

沖縄キリスト教短期大学

学長 神山 繁實

本年度前期授業評価が例年通り実施され、授業評価項目に従ってその全体像が明らかにされた。全体的に見て教員の授業についての評価は、毎年わずかながら上向きで推移しているが、元々、教員に対する授業評価は高い数値を示している。しかし、一方において、学生自身の授業に対する取り組みの自己省察はきわめて低い。一例であるが、学生は、授業を受けるにあたって、各2時間、計4時間の予習・復習が必要であるが、その半分をはるかに割り込む4分の1の時間数である。大学は、自分で学ぶ学習（自学・自習）を原則とするが、大学に入っても依然として受身の「勉強」に始終している。十分な予習をしていないと、内容が難しいということになり、授業の速度が速すぎると感じるのは当然である。

元来、学生が授業についていけるように各自の準備が必要であるが、授業評価の結果を見る限り授業を行う教員が、授業を受ける準備のできていない学生のペースに合わせることを求められているようである。分かりやすい授業が歓迎されたり、面白い授業が喜ばれることは、その裏返しであろう。

大学教育は、学生の自主的な勉学の醸成を支援する目的を持つ。シラバスはこの点で重要な文書である。本学のシラバスは全体的に組織的によく整備されていると思うが、学生がその内容をよく周知徹底できる取り組みが必要である。この中に、授業科目の内容と目的とがすべて網羅されており、授業の目的と進路を明確にすることにある。また、シラバスは、個々の授業に対する教員と学生との間の契約書のような実質を持つものであるから、最初の段階で十分納得行くまで自分で調べ、活用される必要があるし、この営みなしには教える者、学ぶ者の理解が十分成立しないまま、進んでいくことになる。そうならないように、学生には、シラバスの担う役割を十分認識してもらい必要がある。

授業評価のあり方、目的について担当部署で検討がされている段階だが、大変よいことである。普通の教育的営為の中で、「絶えず改革され続ける」ことは、重要なプロテスト原理である。

最後に、このアンケート調査に協力いただいた方々に心から感謝の意を表し、今後も継続的にこの営みが進化して行くことを願う次第である。

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会委員（2011年度）

神 山 繁 實（委員長・学長）
城 間 仙 子（委員・短期大学部長）
柳 田 正 豪（委員・英語科長）
川 西 康 裕（委員・保育科長）
青 野 和 彦（委員・総合教育系主任）
金 永 秀（委員・宗教部長）
内 間 清 晴（委員・図書館長）
近 藤 功 行（委員・キャリア開発部長）
大 城 亘 武（委員・教学部長）
上 原 明 子（委員・入試部長）
与那覇 明 弘（委員・事務局長）
金 城 繁 正（委員・企画推進課長代行）

執筆者

上 原 明 子（総合教育系）
城 間 仙 子（英語科）
喜舎場 勤 子（保育科）

以上

沖縄キリスト教短期大学
2011年度前期
学生による授業評価報告書

第1章

授業評価の概要

1 学生による授業評価の概要

2011年度前期の授業評価アンケートを、同年7月(学期末に近い時期)に実施した。85科目、151クラス(実習科目は含まない)について分析を行った。分析の対象になった評価票は、3699件であった。評価は5段階法を採用しており、1点を最低、5点を最高の評価としている。

各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。

以下、各設問に対する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。

Q1「先生は、学期始めに授業の目的およびこの授業で学生のなすべきことについて明確に説明しました」

「5」評価が76%、「4」評価を加えると95%(前年同期比4%上昇)であったことから、授業目的や概要の説明、授業ガイダンス等は適切に実施されていると捉えることができる。

Q2「先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました」

「5」評価が74%、「4」評価を加えると93%(前年同期比4%上昇)であったことから、Q1「授業目的」と同様に、適切に説明がなされていると捉えることができる。

Q3「先生は、授業について熱意がありました」

「5」評価が81%、「4」評価を加えると96%(前年同期比3%上昇)であったことから、教員は十分な熱意を持って授業を行なっていると学生に捉えられている。なお、17の設問のうち、「5」の評価の割合が最も高いのが本設問であり、本学教員に対する評価として肯定的に受け止めてよいだろうと考えられる。

Q4「先生の授業は、とてもわかりやすかった」

「5」と「4」の評価を合わせると87%(前年同期比6%上昇)であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われるが、Q3の「熱意」と比較すると10%近く数値が下がる。「熱意」と「分かりやすさ」の両方を高く評価できるよう、FDなどを通してさらなる授業への工夫が期待される。

Q5「先生の授業の準備はよくできていました」

「5」と「4」の評価を合わせると94%(前年同期比5%上昇)であったことから、教材研究や準備等は適切になされていると考えられる。

Q6「先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました」

「5」と「4」の評価を合わせると91%(前年同期比7%上昇)あり、おおむね良好な結果であると捉えられる。

Q7「先生の授業は、時間通りに始まり、時間通りに終わりました」

「5」と「4」の評価を合わせると93%（前年同期比3%上昇）であったことから、授業時間管理がほぼ適切になされていると考えられる。

Q8「授業でわからないことを質問する機会や工夫がありました」

「5」と「4」の評価を合わせると91%（前年同期比5%上昇）であったことから、おおむね良好な結果であろう。

Q9「先生は、授業を乱す行為(私語、携帯電話、居眠り、中座等)」に対して適切に対応していました。」

「5」と「4」の評価を合わせると90%（前年同期比5%上昇）であったことから、おおむね適切な対応を取っているものと考えられるが、10%の学生は教員の対応に満足していない。学生の受講マナー指導とともに、授業環境の保証において、さらなる努力が必要である。

Q10「私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように勧めたい」

「5」と「4」の評価を合わせると88%（前年同期比6%上昇）であり、良好な結果だと捉えられる。

Q11「私は、この授業に熱意を持って取り組みました」

「5」と「4」の評価を合わせると90%（前年同期比5%上昇）であり、教員同様、学生たちもおおむね熱心に授業に取り組んでいると評価できる。

Q12「私は、授業の学習にあたり、シラバス(講義要項・学習計画)を参考にしました」

本設問は他に比して評価にばらつきが見られる（「5」49%、「4」24%、「3」20%、「2」5%、「1」3%）。学習に対して学生の自律の姿勢を求めるのであれば、学生個人が自分で学習計画を立てられるように、実際の授業実施に則した計画を提示することが求められる。

Q13「私は、授業中、私語や携帯電話・中座など、授業を乱す行為をしませんでした」

「5」と「4」の評価を合わせると90%（前年同期比4%上昇）であり、学生の受講態度はおおむね良好と捉えられる。

Q14「私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした」

「5」と「4」の評価を合わせると85%（前年同期比3%上昇）であった。設問中の「ほとんど」という表現は曖昧で、学生によって捉え方が異なると思われるため、今後設問表現の改善も視野に入れる必要がある。

Q15 「私は、この授業のために週あたりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」

開設科目の多くを占める週あたり 2 時間の授業では授業以外で求められる学習時間が 4 時間であることを考えると、この結果（自習 1 時間未満が 69%、2 時間未満 88%）は我々の期待をはるかに下回るものである。我々が大学生に「自律」「自修」を求めるのであれば、この結果を深刻に受け止めなければならない。

Q16 「この授業を全体的に評価してください」

「5」と「4」の評価を合わせると 79%（前年同期比 5%上昇）であり、おおむね評価が高い。

Q17 「私は、この先生の別の科目も受講したいと思います」

この設問は、教員に対する期待を示すものであると捉えることができよう。「5」と「4」の評価を合わせると 81%（前年同期比 7%上昇）であり、学生の教員に対する期待はおおむね高いと考えられる。

Q1 授業の目的

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	13	.4	.4	.6
3	165	4.5	4.5	5.1
4	689	18.6	18.7	23.8
5	2821	76.3	76.4	100.2
合計	3694	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	3699	100.0		

Q2 成績評価方法

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	4	.1	.1	.1
2	25	.7	.7	.8
3	221	6.0	6.0	6.8
4	716	19.4	19.4	26.2
5	2729	73.8	73.9	100.0
合計	3695	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.1		
合計	3699	100.0		

Q3先生の熱意

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	5	.1	.1	.1
2	8	.2	.2	.3
3	143	3.9	3.9	4.2
4	555	15.0	15.0	19.2
5	2984	80.7	80.8	100.0
合計	3695	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.1		
合計	3699	100.0		

Q4わかりやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	24	.6	.6	.6
2	90	2.4	2.4	3.0
3	354	9.6	9.6	12.6
4	727	19.7	19.7	32.3
5	2499	67.6	67.7	100.0
合計	3694	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	3699	100.0		

Q5準備よい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	4	.1	.1	.1
2	25	.7	.7	.8
3	199	5.4	5.4	6.2
4	654	17.7	17.7	23.9
5	2811	76.0	76.1	100.0
合計	3693	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3699	100.0		

Q6理解興味の工夫

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	11	.3	.3	.3
2	39	1.1	1.1	1.4
3	290	7.8	7.9	9.3
4	741	20.0	20.1	29.4
5	2609	70.5	70.6	100.0
合計	3690	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	9	.2		
合計	3699	100.0		

Q7時間どおり

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	6	.2	.2	.2
2	38	1.0	1.0	1.2
3	228	6.2	6.2	7.4
4	628	17.0	17.0	24.4
5	2792	75.5	75.6	100.0
合計	3692	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	3699	100.0		

Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	9	.2	.2	.2
2	54	1.5	1.5	1.7
3	264	7.1	7.1	8.8
4	707	19.1	19.1	27.9
5	2657	71.8	71.9	99.8
合計	3691	99.8	99.9	
欠損値 システム欠損値	8	.2		
合計	3699	100.0		

Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	9	.2	.2	.2
2	34	.9	.9	1.1
3	332	9.0	9.0	10.1
4	773	20.9	20.9	31.0
5	2539	68.6	68.7	99.7
合計	3687	99.7	99.8	
欠損値 システム欠損値	12	.3		
合計	3699	100.0		

Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	38	1.0	1.0	1.0
2	56	1.5	1.5	2.5
3	356	9.6	9.6	12.1
4	692	18.7	18.7	30.8
5	2552	69.0	69.1	99.9
合計	3694	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	3699	100.0		

Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	10	.3	.3	.3
2	40	1.1	1.1	1.4
3	334	9.0	9.0	10.4
4	900	24.3	24.4	34.8
5	2409	65.1	65.2	100.0
合計	3693	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3699	100.0		

Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	99	2.7	2.7	2.7
2	172	4.6	4.7	7.4
3	732	19.8	19.8	27.2
4	879	23.8	23.8	51.0
5	1807	48.9	48.9	99.9
合計	3689	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	10	.3		
合計	3699	100.0		

Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	8	.2	.2	.2
2	55	1.5	1.5	1.7
3	318	8.6	8.6	10.3
4	812	22.0	22.0	32.3
5	2500	67.6	67.7	100.0
合計	3693	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3699	100.0		

Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	22	.6	.6	.6
2	90	2.4	2.4	3.0
3	415	11.2	11.2	14.2
4	725	19.6	19.6	33.8
5	2428	65.6	65.7	99.5
合計	3680	99.5	99.6	
欠損値 システム欠損値	19	.5		
合計	3699	100.0		

Q15予習復習時間

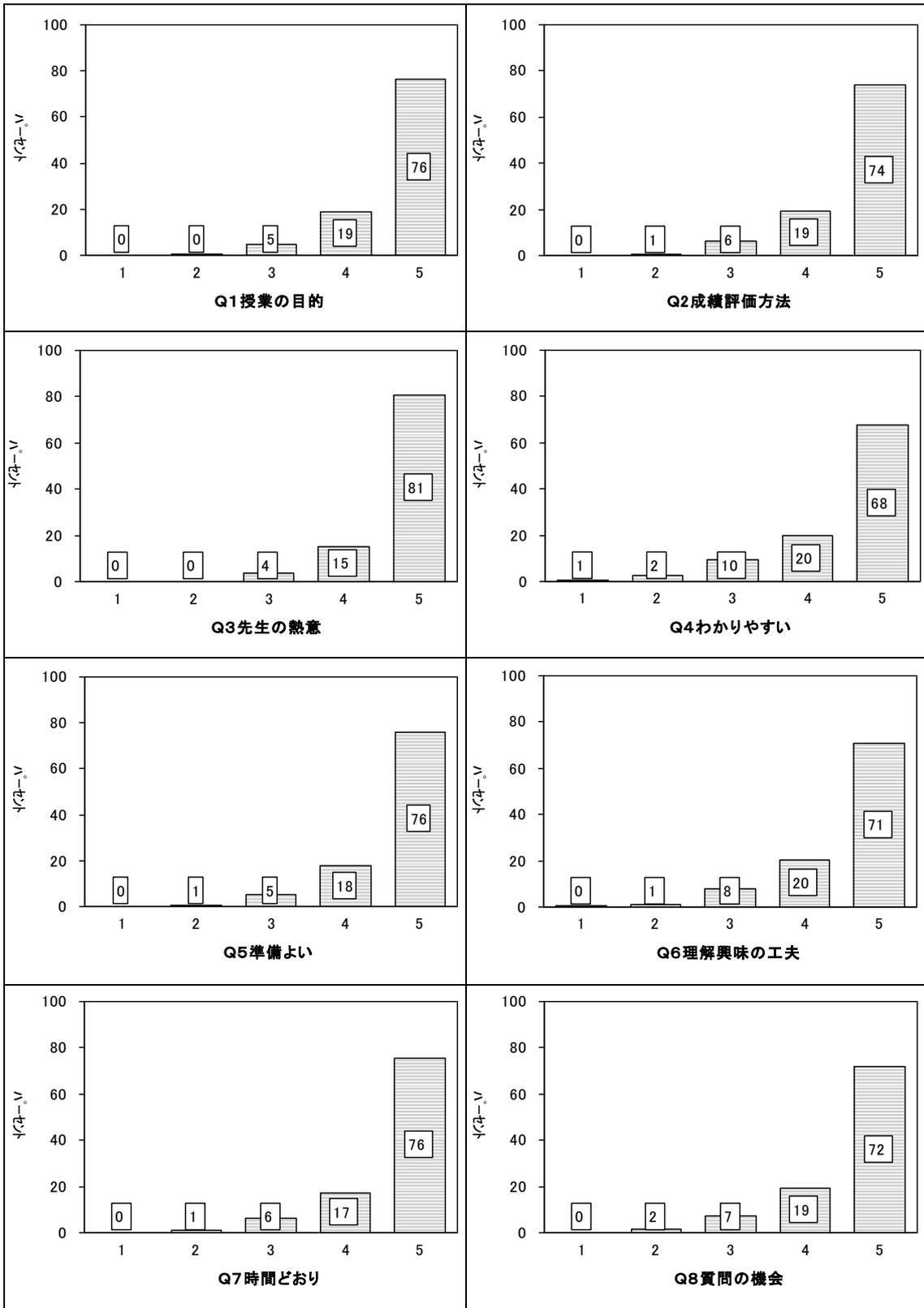
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1356	36.7	36.7	36.7
2	1203	32.5	32.6	69.3
3	686	18.5	18.6	87.9
4	176	4.8	4.8	92.7
5	92	2.5	2.5	95.2
合計	3513	95.0	95.1	
欠損値 システム欠損値	186	5.0		
合計	3699	100.0		

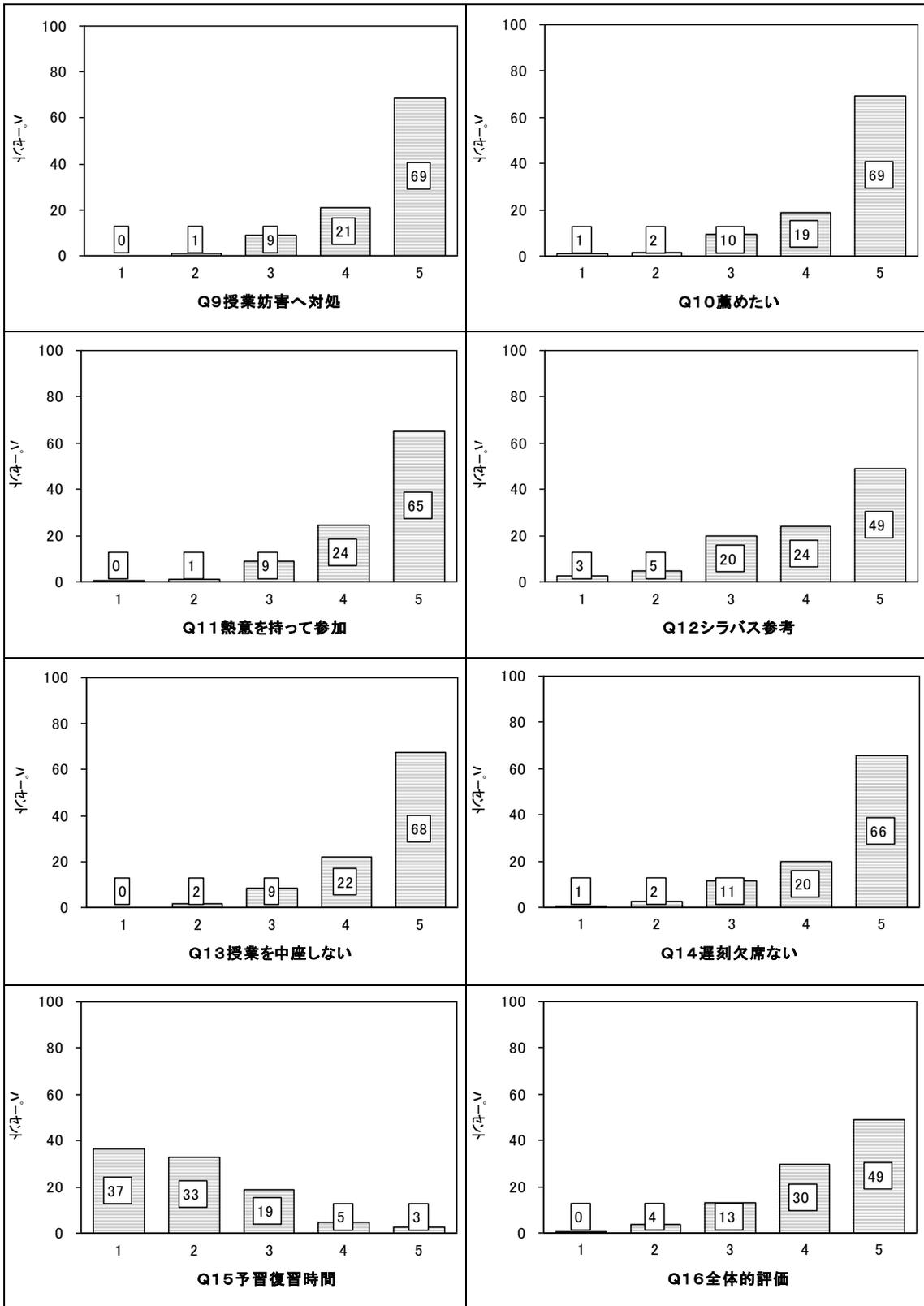
Q16全体的評価

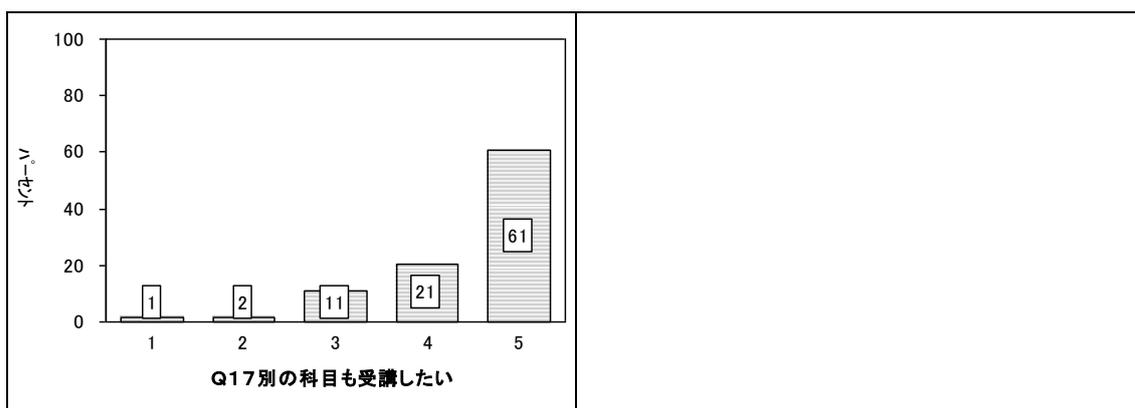
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 0	80	2.2	2.2	2.2
1	13	.4	.4	2.6
2	133	3.6	3.6	6.2
3	480	13.0	13.0	19.2
4	1088	29.4	29.5	48.7
5	1819	49.2	49.2	97.9
合計	3613	97.7	97.8	
欠損値 システム欠損値	86	2.3		
合計	3699	100.0		

Q17別の科目も受講したい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	52	1.4	1.4	1.4
2	67	1.8	1.8	3.2
3	405	10.9	11.0	14.2
4	759	20.5	20.5	34.7
5	2238	60.5	60.6	95.3
合計	3521	95.2	95.3	
欠損値 システム欠損値	178	4.8		
合計	3699	100.0		







2 全体の評定結果

短大生全体の平均値をみると、Q15 の「予習・復習時間」以外の項目すべてで平均値が 4.00 を超え、学生はおおむね大学が提供する授業に対して肯定的に評価していると捉えてよいだろう。

唯一低い平均値を示す Q15 の「予習・復習時間」であるが、これは本学が数年来抱えてきた課題である。学生の生活習慣や経済的事情も反映されているのではあろうが、やはり改善が強く求められる項目である。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1 授業の目的	3694	1	5	4.71	.581
Q2 成績評価方法	3695	1	5	4.66	.630
Q3 の熱意	3695	1	5	4.76	.537
Q4 わかりやすい	3694	1	5	4.51	.816
Q5 準備よい	3693	1	5	4.69	.613
Q6 理解興味の工夫	3690	1	5	4.60	.705
Q7 時間どおり	3692	1	5	4.67	.653
Q8 質問の機会	3691	1	5	4.61	.706
Q9 授業妨害へ対処	3687	1	5	4.57	.714
Q10 薦めたい	3694	1	5	4.53	.810
Q11 熱意を持って参加	3693	1	5	4.53	.726
Q12 シラバス参考	3689	1	5	4.12	1.050
Q13 授業を中座しない	3693	1	5	4.55	.731
Q14 遅刻欠席ない	3680	1	5	4.48	.833
Q15 予習復習時間	3513	1	5	1.99	1.009
Q16 全体的評価	3613	0	5	4.20	1.064
Q17 別の科目も受講したい	3521	1	5	4.44	.876

3 学科ごとの評定結果

3.1 総合教育系の評定結果

前年度（前期）との比較では、17項目中、16項目で平均値が向上している。下がった項目のQ7「時間どおり」も、4.72から4.70となっており、高い評価を得ている。教員要因項目の中で最も高い評価を得たのはQ3「熱意」の4.82で、次いで、Q5「準備よい」の4.73、Q6「理解興味の工夫」4.70となっており、本学の教員の授業への取り組みが高く評価されている。また、Q1「授業の目的」4.72、Q2「成績評価方法」4.70から、授業に対する説明がしっかりなされているという評価を得た。学生要因項目については、Q15「予習復習時間」が1.89から1.91に若干上がってはいるが、低い評価は依然として課題のままである。最も高い評価がQ11「熱意を持って参加」4.55となっており、これは、教員要因項目の評価の高さと連動し、本学の授業が概ね良好であることを示している。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	887	1	5	4.72	.568
Q2成績評価方法	887	1	5	4.70	.581
Q3の熱意	887	2	5	4.82	.458
Q4わかりやすい	887	1	5	4.59	.744
Q5準備よい	887	1	5	4.73	.578
Q6理解興味の工夫	886	1	5	4.66	.625
Q7時間どおり	887	2	5	4.70	.596
Q8質問の機会	887	1	5	4.61	.709
Q9授業妨害へ対処	884	1	5	4.56	.723
Q10薦めたい	887	1	5	4.59	.746
Q11熱意を持って参加	887	1	5	4.55	.709
Q12シラバス参考	884	1	5	4.08	1.029
Q13授業を中座しない	886	1	5	4.57	.722
Q14遅刻欠席ない	886	1	5	4.47	.818
Q15予習復習時間	849	1	5	1.91	.938
Q16全体的評価	877	0	5	4.24	1.072
Q17別の科目も受講したい	858	1	5	4.43	.848

3.2 英語科の評定結果

前年同期の評定結果同様、1項目（週あたりの予習復習時間）を除くすべてにおいて平均点が4.0以上である。また、前年同期比では全項目の評価が向上しており、この点では良好と言えよう。週あたりの予習復習時間についても増加はしているものの、2.28という数字は、つまり週あたりの予習復習時間が1時間にも満たないことを指しており、週4回あるいは2回の授業が大きな割合を占める英語科の評定結果としては、やはり少ないと指摘せざるを得ない。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1083	1	5	4.71	.578
Q2成績評価方法	1083	2	5	4.69	.605
Q3の熱意	1083	1	5	4.71	.579
Q4わかりやすい	1083	1	5	4.47	.832
Q5準備よい	1082	2	5	4.66	.634
Q6理解興味の工夫	1081	1	5	4.58	.726
Q7時間どおり	1081	1	5	4.66	.641
Q8質問の機会	1081	1	5	4.60	.721
Q9授業妨害へ対処	1081	1	5	4.52	.756
Q10薦めたい	1083	1	5	4.51	.813
Q11熱意を持って参加	1083	1	5	4.44	.766
Q12シラバス参考	1081	1	5	4.18	1.021
Q13授業を中座しない	1083	1	5	4.39	.815
Q14遅刻欠席ない	1077	1	5	4.22	.966
Q15予習復習時間	1010	1	5	2.28	1.020
Q16全体的評価	1049	0	5	4.12	1.008
Q17別の科目も受講したい	1020	1	5	4.43	.896

3.3 保育科の評定結果

教員要因 (Q1-Q10) の平均値は 4.63 と高く、回答のばらつきを示す標準偏差も小さかった。最高値は Q3「教員の熱意 (4.76)」で、教員が情熱を持って学生の学習意欲を喚起する授業を適正に行っていると評価できる。

学生要因 (Q11-17) の平均値は 4.07 であり、教員要因との比較では標準偏差が大きかった。Q12「シラバス参考 (4.10/1.077)」Q16「全体的評価 (4.22/1.091)」が比較的 low、Q15「予習復習時間 (1.85/1.002)」は最低値であった。これらは全て標準偏差が 1 を超えている。上記から教員評価に比べ学生自身の省察が低いことがわかる。過去 3 年間も同様であった。シラバス活用など学習主体者としての学生の意識を促すとともに、Q15 については教員間の概念整理が急務と思われる。学生が学習主体者としての自覚を有した時、自ずと Q16 も上昇するのではないだろうか。

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1724	1	5	4.70	.589
Q2成績評価方法	1725	1	5	4.62	.667
Q3の熱意	1725	1	5	4.76	.546
Q4わかりやすい	1724	1	5	4.50	.838
Q5準備よい	1724	1	5	4.69	.615
Q6理解興味の工夫	1723	1	5	4.58	.728
Q7時間どおり	1724	1	5	4.66	.688
Q8質問の機会	1723	1	5	4.62	.694
Q9授業妨害へ対処	1722	1	5	4.62	.678
Q10薦めたい	1724	1	5	4.52	.839
Q11熱意を持って参加	1723	1	5	4.58	.704
Q12シラバス参考	1724	1	5	4.10	1.077
Q13授業を中座しない	1724	1	5	4.65	.658
Q14遅刻欠席ない	1717	1	5	4.65	.697
Q15予習復習時間	1654	1	5	1.85	1.002
Q16全体的評価	1687	0	5	4.22	1.091
Q17別の科目も受講したい	1643	1	5	4.45	.879

4 自由記述による評価

4.1 総合教育系の授業について

「1. よい点」として、「おもしろい」「楽しい」「熱意がある」「工夫がなされている」等の記述が多く見られた。「2. 改善点」としては、教員の指導方法や機材使用の工夫についての記述や教室環境（クーラーの温度）についての記述があった。「3. 感想等」では、概ね授業内容や教師の熱心な指導について満足が伺えるが、一方で、教員の態度に対する厳しい批判の記述も見られた。

4.2 英語科の授業について

授業の良い点で多く挙げられているのが、担当教員の授業に対する工夫への評価と授業に対する熱意であった。改善点に関しては、「先生が早口」「教員の声が小さい」「クラスメートの私語が目立った」など学習環境に関する記述や「難しすぎる」「進め方が速すぎる」など内容に関する記述が多かった。中には教員の態度に対する強い指摘も見られた。

4.3 保育科の授業について

「1. この授業のよい点」については523件の評言があった。講義・演習ともに「わかりやすい」「楽しい」の文言が多く、その理由として「深く考えることができた」「発見があった」「たくさんの知識を身につけられる」「いろいろな人の意見が聞けた」（講義系）、また「実際に」「具体的に」（演習系）の文言も多く、知識・技術習得の実感が読み取れる。

「2. 改善して欲しい点」は73件あり、「クラス人数が多い」「授業進行のスピードが速い」と合わせ、教員の言動や指導法への言及も数件あった。

「3. 授業に対する感想等」は335件あり、授業の運営方法について、教材について、教員の言動や指導法などに対して肯定的な評言が多くみられた。

おわりに

全学科の教員要因の評価の高さ、学生の授業に対する意識の高さはともに我々を勇気づける結果である。ただし、繰り返しになるが、「予習・復習の時間」については依然として数値の低さが気になる結果となっており、今後さらなる改善に向けた議論が必要であろう。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7月
後期 1月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長
沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問1～17について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5非常にそう思う 4そう思う 3どちらとも言えない 2そう思わない 1全くそう思わない

	評 価 欄
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5 4 3 2 1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5 4 3 2 1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5 4 3 2 1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5 4 3 2 1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5 4 3 2 1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5 4 3 2 1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5 4 3 2 1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5 4 3 2 1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5 4 3 2 1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5 4 3 2 1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5 4 3 2 1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5 4 3 2 1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5 4 3 2 1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5 4 3 2 1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 (3時間以上) 4 (2時間ぐらい) 3 (1時間ぐらい) 2 (30分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)	5 4 3 2 1
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。 5 秀 4 優 3 良 2 可 1 不可 0 わからない	5 4 3 2 1
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5 4 3 2 1

科 目 名	クラス名 ()			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所属学科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入試区分	1 一般入試	2 推薦入試	3 A0入試	

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。
(裏面に記入)

1. この授業のよい点
2. この授業に改善してほしい点
3. この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
4. 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点															
2. この授業に改善してほしい点															
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。															
4. 学長へ（聞いてほしいこと）															